

ふるさと歴史散歩

〔第62回〕 道隆寺⑤

弘法大師空海が延暦24年(805年)5月、唐の都の青龍寺に恵果和尚を訪ねたとき、和尚は非常に喜び、笑みを湛えて「私は汝が来ることを前から知っていた。ずっと待ち続けていたから会えてとても嬉しい。法を授けようにも人がいない。すぐに灌頂(かんじょう)伝授の儀式を受けよう。」

と言ったという。恵果は全ての法を最後の弟子の空海に半年にわたって集中して授けた。空海は唐語と梵語(さんすくりット語)に通じていたので、その様子はあたかも瓶の水を別の瓶に移しかえるが如くであったという。

しかし、恵果和尚はその年の12月に病に倒れ他界した。空海は全弟子を代表して和尚の徳行を顕彰する碑文を起草するという大役を務めている。翌年の春から夏までの間に、空海は帰国準備に入り、多くの經典、仏画や道具類を集めた。それらは『御請来目錄』に記録されており、まさしくわが国で真言密教などの新し

い仏教を拓かんとするものであった。

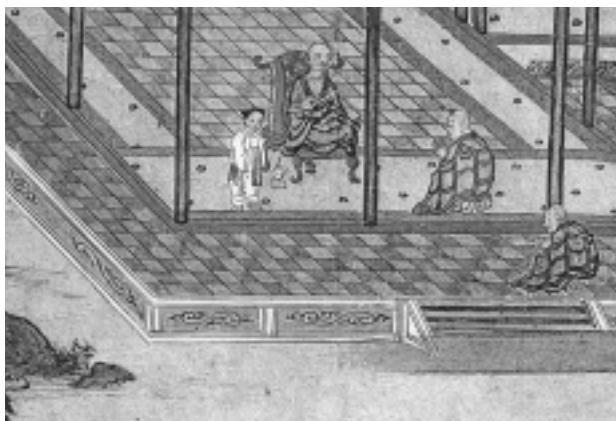
大同元年(806年)10月に空海は無事日本に帰国したが、通常20年の留学期間を2年に短縮したことが違法とされて、入京の許しが出るまでの数年間、九州大宰府に滞在を余儀なくされ、持ち帰った經典類を読んで過ごした。空海が入京を許されたのは大同4年(809年)、嵯峨天皇が即位してからである。後に天皇は真言密教の保護者となった。後、帰国から十数年後に天皇から高野山を賜り、金剛峰寺を開いて真言宗の開祖となり、当時の仏教界に確固たる地位を築くことになる。

空海が持ち帰った經典類がとても重要なものであるのは、それまで遣隋使・遣唐使で渡海した留学僧や来朝した唐僧ら

がもたらした經典類と殆ど重複していなかった点である。これは空海が入唐するまでの期間に、先達たちが請来した經典類を全て知ったこととなり、このことから空海の聡明さ、偉大さを知ることができる。

府中町文化財保護審議会会長

横田 禎昭



恵果和尚(左)から弘法大師(右 合掌しひざまずく人)へ弘法の全てを伝授している様子(『弘法大師行状絵詞 上』中央公論社 1990年から)

訂正…12月号の歴史散歩中の記事「三谿郡の読み方は「さんたにぐん」ではなく「みたにぐん」です。



正しいごみ出しにご協力を

府中町清掃事務所 ☎286-3266



ごみの特別収集

午前8時30分 までにごみステーションへ

1/12 (月・祝)	北部	普通ごみ(月・木曜日地区)
	南部	有価物(月曜日地区)
2/11 (水・祝)	北部	大型ごみ(大通1~3丁目地区) ※水曜日地区の有価物収集は行いません
	南部	埋立ごみ・有害物(第2回目水曜日地区) ペットボトル・白色トレイ・紙パック (第2回目水曜日地区) ※水曜日地区の有価物収集は行いません

※ただし、清掃事務所へのごみの持ち込みは受け付けていませんので注意してください。



有価物の収集

有価物(新聞、雑誌、ダンボール、布、ビン、缶、金属類)は、再資源化等のため、品目別に順番に収集しています。すでに収集が終わっている品目は、後から出さないでください。みなさんのご協力が必要です。



清掃事務所へのごみの持ち込み

●受付時間(時間厳守)

月曜日~金曜日(祝日・年末年始を除く)
午前9時~11時30分、午後1時~3時30分

●剪定した庭木を持ち込む時は…

剪定した枝は50cm以下に切って、30cm以下に束ねて搬入してください。また、小さな枝、草や葉は中身の見える袋に入れて搬入してください。